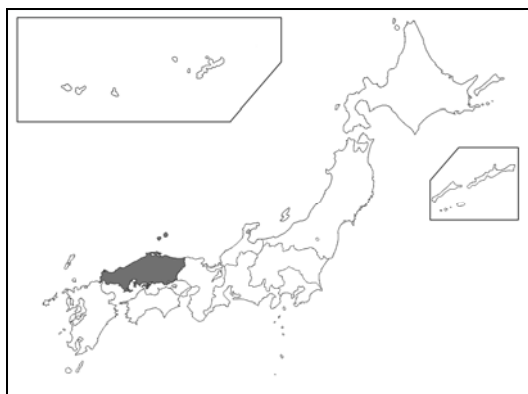


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

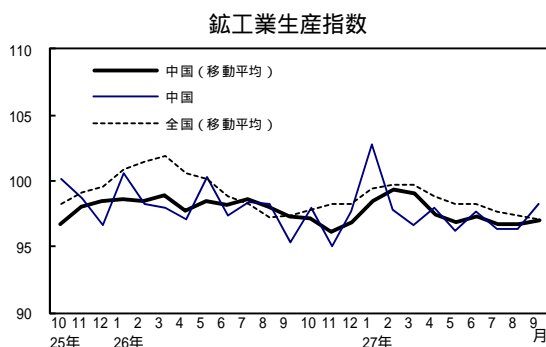
前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年8月)	今回(平成27年11月)	
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さ	緩やかな回復基調	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、輸送機械は、自動車が軽自動車の内需低迷からやや減少したが、船舶の増加により増加した。化学は、生産プラントの定期修理明けなどから増加した。はん用・生産用・業務用機械は、建設機械などの減少により減少した。鉄鋼は、在庫調整の進展などから増加した。電子部品・デバイス、液晶素子などの減少により減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

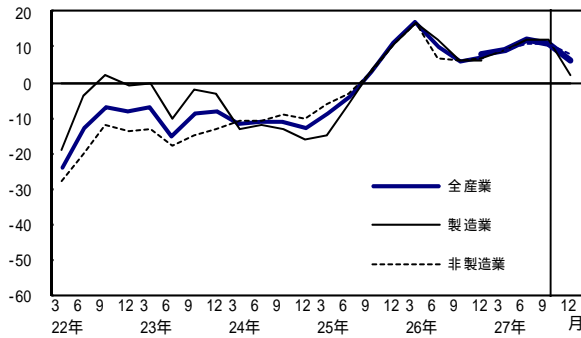
	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	23.5	5.3	3.3	0.7	1.3	1.3
化学	16.4	3.3	8.5	8.2	7.2	9.8
はん用・生産用・業務用機械	11.2	8.3	14.7	18.4	3.2	11.7
鉄鋼	7.7	6.1	2.1	0.9	3.5	4.1
電子部品・デバイス	7.1	4.8	3.5	0.8	1.0	1.2
鉱工業	100.0	1.8	0.2	1.2	0.1	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

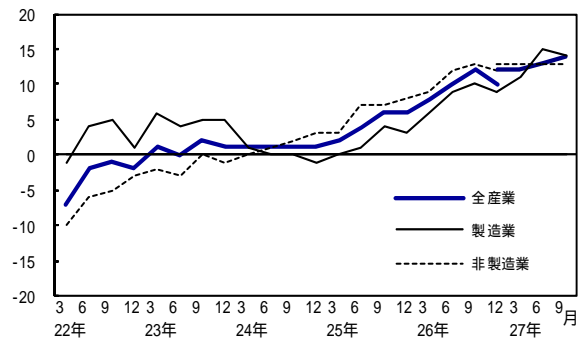
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



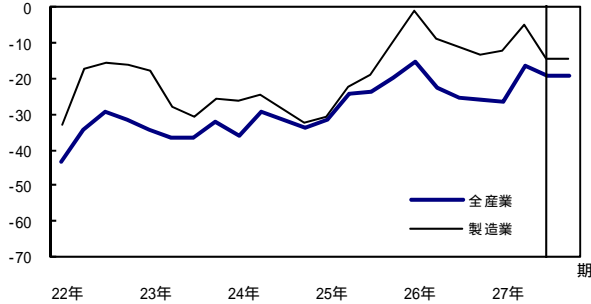
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



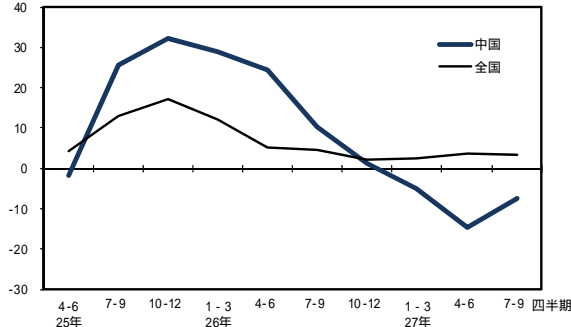
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「情報通信に関連した来年度予算の引き合いが集中する時期にあるものの、2～3年後の中期での投資検討によるものが多く、短期的な売上の見込みが厳しくなっている(通信業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	8.4	7.4 (0.9)
製造業	13.8	7.6 (0.8)
非製造業	1.6	7.0 (1.2)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.0%減、8月は同1.6%増、9月は同0.8%減となった。

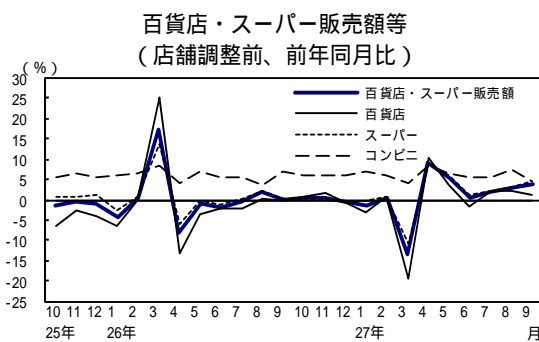
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、家具を除いて前年を上回った。8月は、婦人服や紳士服の販売が低調であったが、化粧品、時計などの販売が引き続き好調で前年を上回った。9月は、衣料品の販売が低調であったが、改装効果もあって食料品の販売が好調で、前年をやや上回った。スーパーは、精肉や野菜など生鮮食品の価格上昇で飲食料品の売上が引き続き伸びており、前年同期を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、48.7となり前月より3.3ポイント上昇した。

「例年に比べてハロウィン関係の動きが活発で、客の反応が非常に良い。結婚式も多く、装飾品の動きが良く、今月は売上目標をクリアしている(その他専門店[ファッション雑貨])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

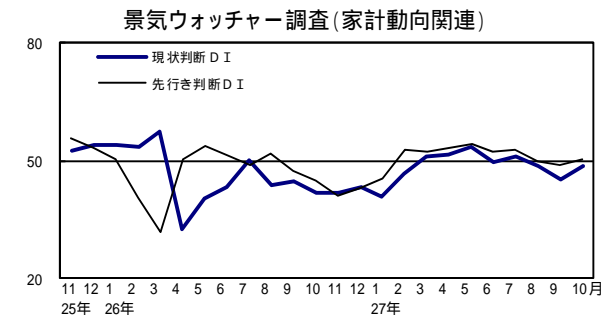
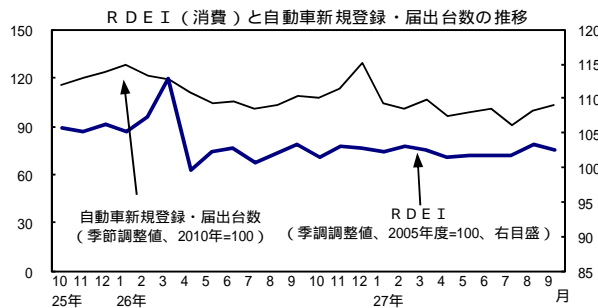


	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.9	0.0	1.6	0.8
百貨店・スーパー(*2)	2.8	2.1	2.8	3.7
百貨店(*2)	1.9	2.2	2.3	1.0
スーパー(*2)	3.2	2.0	3.1	4.7
コンビニ(*2)	5.8	5.4	7.3	4.5
乗用車(*3)	5.5	7.8	1.4	6.2
(季節調整値)(*3)	0.4	10.1	10.0	3.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

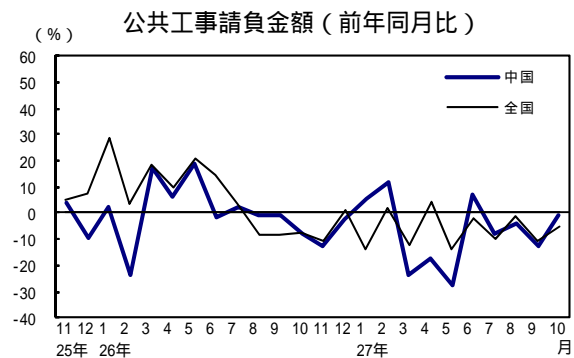
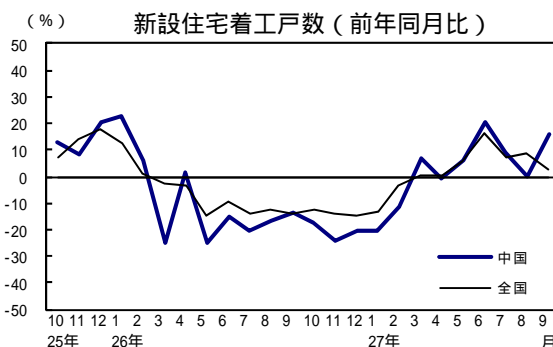
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

持家、貸家、分譲ともに前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計で見ると前年度を下回っている。

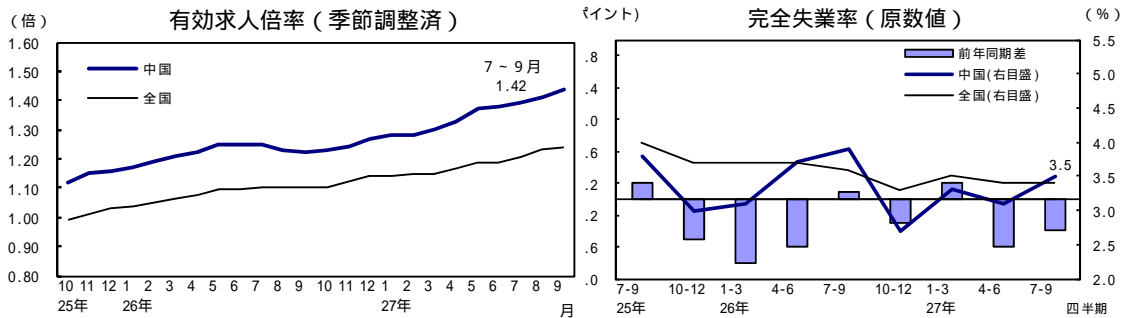


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

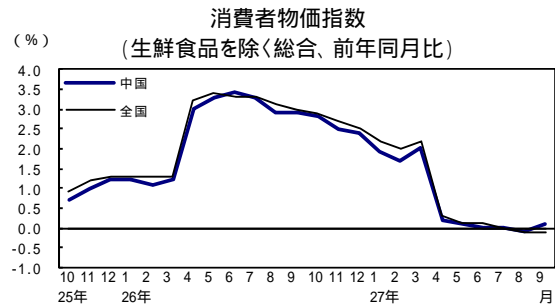
「人手不足の声は依然としてよく聞か、相変わらず土木建設関係が主体である。サービス業、小売業界も同様の声は多いが、あくまでアルバイト、パートが中心である。一部事業所で時給を引き上げており、少しでも良い条件の企業に動くフリーターが目立ち、その穴埋めの求人が中心となっている(新聞社[求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、おおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	107	119	92	87	31
(前年比)	3.6	2.5	16.4	19.4	35.4
負債総額	101	265	163	91	37
(前年比)	51.1	24.3	0.1	46.4	22.5



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・中国横断自動車道「尾道松江線」全通の影響で、山陰からの客が増え売上が伸びている(一般小売店[紙類])

<先行き>

・客単価は悪くないものの、先の予約状況は前年に比べて良くない(高級レストラン)。

